

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)5月10日

No. 101

発行 高津啓洋

豊島の森

4月20日、大滝順治千葉県支部長が、豊島区と近くの小学校に見学の交渉をして、区役所、小学校から歓迎を受け

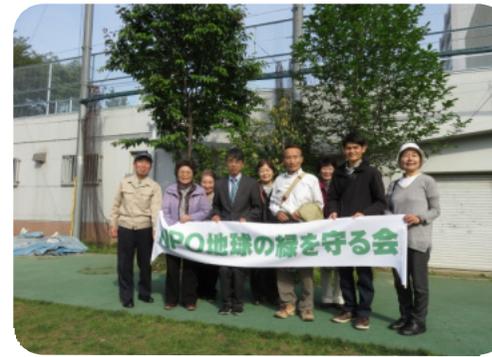
ながら、説明を聞くことが出来ました。

豊島の森の観察会（区役所ビルの10階に森が作られ、8階、6階、4階までそれぞれ、豊島区にある地域的な木と花などとともに各階に小川が流れ、メダカも泳いでいました）をしました。

その後、豊島区役所環境課の富樫課長さんから、豊島区の宮脇方式による環境防災保全林等についてお話を聞きました。

さらに、近くの小学校の副校長先生から、小学校に植樹した当時の様子と、その後をお聞きし、皆で写真を撮りました。

最後には、高津啓洋代表



を中心に感想をそれぞれが述べ合い有意義な観察会のひと時となりました。

めぐりの森植樹

第5月8日、湘南国際村めぐりの森 植樹・育樹祭が行われました。地球の緑を守る会湘南支部から8名と私（大滝）の合計9名でした。（奥平支部長家庭とゲスト・麦わら帽子の方）

今回は約600名の参加者で、タブノキ、スダジイ、アラカシ、ムラサキシキブ等22種の苗木2000本を植樹しました。

午前中は植樹、午後は育樹（昨年植えた所の雑草取り）と、水脈作り作業。



神奈川県所有の広大な丘陵地帯を緑地化する為に行われている植樹祭は今回が第11回目となり、はるばる神戸市からの参加者も居ました。

会場に行く道すがら、手に苗木を持っている一行が居り、話を聞いてみると、「昨年も参加しその時2本入手した幼苗を自宅で育て、今日の日を心待ちして居ました。二人を引き離し一本だけ自宅に残すのが可哀そうで、育てると愛着が湧いてきてます。ドングリを蒔いて発芽させたら本当に愛着が湧いてきますよ」。

今回は第11回目の植樹祭であり、参加者の中に幾度も参加して居る方が多く居りました。

200本を1時間程で見事に植樹完了。《水脈作り》傾斜のある管理道路の端に蛇行した溝を掘り、木炭、木片枯れ草等を入れ排水を良くしながら土の流失を防ぎます。

泥水の多い所には浸透パイプも用いる事もある。

（大滝 記）

